

## BLACK TOE

“CHICAGO”のつま先部分と、シューレースホルの補強パーツをブラックに変更した1985年発売のオリジナルカラー、“BLACK TOE”。国内でも“つま黒”の愛称で親しまれるカラーウェイだ。プロモーション用画像でMJが着用し、当時の広告や紙タグで使われたため知名度も高い1足である。“CHICAGO”と比較すると、ニックネームの由来となった補強パーツだけでなく、シュータンのラベルも白地に黒文字のタイプに変更されておりクールなルックスが印象的。いわゆる1985年発売のバリエーションカラーと考えられがちだが、実はNBAの公式戦でも使用され、ワシントン・ブルッツ（現ワシ

ントン・ウィザーズ）戦での画像が残されている、れっきとしたMJ着用カラーなのだ。レアカラーという付加価値もあり、復刻される度に世界中で熾烈な争奪戦が勃発するのはお約束だが、復刻モデルのみならず、1985年発売のオリジナルでもMJが着用したバージョンとはいくつかディテールの違いが確認されている。例えばAJ1のアイデンティティである、くるぶし部分のウイングマーク。ジャンプマンマークの由来である、シカゴのミシガン湖畔で撮影されたプロモーション画像は、見慣れたウイングマークではなく、“AIR JORDAN”の文字が刻印されている。これはAJ1のプロトタイプ（エアシップのプレイヤーズエディション）のヒールパーツに刻印されていたディテールと同様のもので、“RARE AIR”と呼ばれるバリエーションモデルでも再現されている。また、NBA公式戦であるワシントン・ブルッツ戦で着用した“BLACK TOE”は、製品版が白生地のシュータンに対し、黒地のシュータンが採用されている。黒地のシュータンは“BRED”や“ROYAL”でも採用されているだけに、なぜ製品版の“BLACK TOE”に採用されなかったのかは疑問が残るところ。2017年の今、“BLACK TOE”と聞けば1985年に発売された製品版を誰しもが思いだが、配色だけで言えばP.018で紹介する2007年発売の“OLD LOVE”が正解に近い。今後の復刻版では、どのようなディテールやカラーが再現されるかに注目したい。

## DETAIL



シンプルなディテールを大胆なカラーリングで構成するAJ1だけに、シューレースのカラーが全体の印象に大きく影響する。ストリートで“BLACK TOE”を着用するスニーカーヘッズは、黒や白のシューレースを選ぶのが一般的だ。それに対してMJ本人は赤紐を選択している。ナイキから提供された“BLACK TOE”に、予め赤紐が縫き込まれていたと考えるのが妥当ではあるが、仮にMJ自身が選んだのであれば、着用モデルの特徴でもある黒地のシュータンが影響していたのかもしれない。



Release year: 1985  
AIR JORDAN HIGH  
Colorway: BLK/R-B  
Style Code: 4282  
資料提供: Kicks

